

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」 33 号 H27/9/xx

2 年生

9 月 11 日、岐阜県の防災・減災センターにお願いして「DIG (Disaster Imagination Game 災害図上訓練)」の講習会をして頂きました。

DIGとは、一般市民が独力でも企画・運営できる簡易型の防災図上訓練ノウハウです。DIGでは参加者は大きな地図を囲み、地図上に道路、河川、学校、病院、公園などの構造物を色分けしながら記入していきます。その中に、災害時に危険個所となりうる場所や人が集まる施設、避難経路として使えそうな道などを記入していきます。その上で、もしケガをした被災者を見つけたら自分は何ができるのか、どの経路を通して避難場所へと誘導するのかなど災害時の被害状況や被災者の状況をグループで議論し、災害時を疑似体験しながら防災と減災について考えていきます。

◆講師のご紹介◆

防災士 (NPO 日本防災士機構認定)、防災ボランティアコーディネーター 西田 重成さん

大垣市在住。阪神・淡路大震災の際、被災した長男救出のため地震発生 3 日目に神戸入り。そこで見た光景に大きく影響を受け、それ以降に発生した大地震や水害の災害ボランティア活動に多数参加。東日本大震災では調査・支援活動をされ現在も継続中。2007 年より岐阜県を始め各自治体などで講演会や DIG、HUG の指導をされています。2015 年岐阜県と岐阜大学が協働設置した地域防災の実践的シンクタンク機能を担う「防災・減災センター」のコーディネーターとして各地で「防災エキスパート」の育成に尽力されています。

この地域の地震について

まず始めに西田さんから地震についてお話を聞きました。1978 年当時に今後日本で起こりうる地震



い将来起こりうる危険性が高いそうです。特に、南海トラフ地震 (東海・東南海・南海 3 連動地震) は、記録が残っている限り 100 年から 150 年おきに発生しており、前回南海トラフ地震が発生した 1854 年からすでに 160 年以上経過しているため、今後 30 年以内に発生する確率は 70% と言われています。

10 か所が予想され、その 10 か所の中で 8 か所は予想通り地震が発生しました。2015 年現在、残すは「首都直下型」と「南海トラフ」だけとなっており、近



DIG スタート！



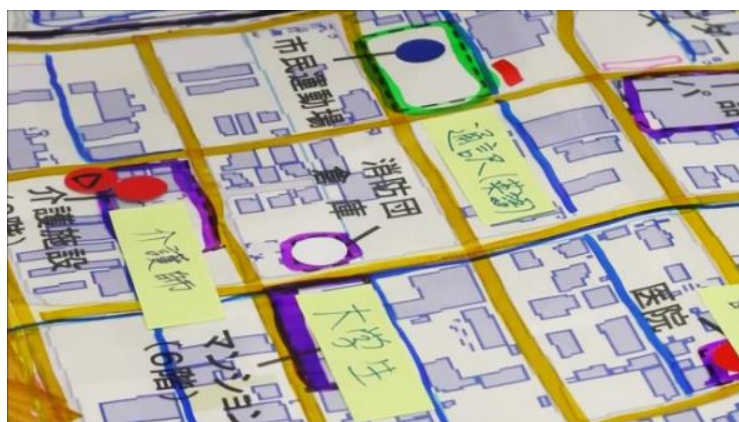
まず始めに地図に透明のシートを重ね、その上に河川や道路、学校、工場、田畑、公園など町の構造物を色マジックでなぞっていき

ます。街の構造を見やすくすることで、街の災害に対する強さ、弱さを分かりやすくします。



次に「人的・物的防災資源」の箇所

にシールを貼っていきます。防災資源とは、官公署、避難所、地域防災に役立つ人材の自治会の人や消防署勤務の人、医療機関や福祉の関係者のいる場所など。また、石垣や自動販売機など災害時に倒壊や落下して危険個所になりうる施設、ショッピングセンターなどの人が集まる場所もマークします。災害時要配慮者（高齢者、寝たきりの人、障がいのある人、妊産婦、乳幼児など）もマークします。



このようにマークやシールを貼った地図を題材として、三重県で地震が発生したと仮定した災害シミュレーションをしてみます。県内は震度6。自分の家族は全員無事で、自宅にも大きな被害はないが、電気、ガス、水道、電話は全面ストップ。自宅周辺では古い家が多数倒壊。ブロック塀や自販機が倒れ、道路の通行を妨げている。消防・警察をはじめ公的救援は早急には望めない。



以上のような状況下で「災害時要配慮者の支援」シミュレーション。「支援が必要な人は、高齢者夫婦。夫が車いすを使用する身体障がい者。地震による身体的被害はありませんが、余震で家屋が全壊する恐れがあります。夫婦は避難のための支援を求めています。速やかにこの夫婦を支援・避難させてください。」というもの。地図上にこの夫婦の現在地をマークし、そ

こから避難所へと夫婦を支援しながら移動する避難の経路と手順をシミュレーションします。地震の影響でブロック塀や自販機が倒れ、道路の通行を妨げており、古い家が多数倒壊している状況で、車いす

の人を含む高齢者夫婦を安全に、かつ迅速に避難所へと移動させるにはどうしたらいいのか、どのルートが安全に移動できるのか、自分に何が出来るのか、想像力を働かせながらシミュレーションします。



一番大事なことは「自分に何が出来るのか」。車いすの人がガレキで埋もれた道路を移動するのは容易ではありません。自分でその人を担いで避難できるほどの体力があればいいですが、それが難しいのであれば近くの人に救援をお願いしましょう。自分にできることは一人でこの夫婦を担いで避難す

ることではなく、避難に必要な物や人、情報を集めること。大きな声で救援を呼ぶことや、どの道が安全に避難できるか確認しに行くこと、安全に避難するために必要な人員や道具を集めるなどは自分たちでもできるはずです。夫婦の住まいの近くに自治会の人や消防関係者、若者など協力を仰げる人がいないか、避難場所への経路に倒壊の恐れのある橋やブロック塀など危険な場所がないか、その上で最短で安全なルー

「ヒント」

★ポストイットにドシドシ書いて貼りましょう

◆「災害時要配慮者」の支援・避難について

- ・支援に必要な人員は何人いるか？
- ・必要な人員をどのようにして集めたか？
- ・何人、集まったか？ 作業のリーダーはいたか？
- ・安全な場所へ避難させる方法は？
(思いつくすべての方法を具体的に書きましょう)
- ・無事に避難できたか？ 要した時間は？
- ・避難場所への最短経路と最も安全な経路を表示したか？
- ・道路・橋・ブロック塀・白版機・倒壊家屋など、避難の障害になった物は？
- ・避難メモは残したか？ 無人になった家屋の防火・防犯対策は？

「災害時要配慮者」の避難支援について、作業内容及び気がついた点や問題点を書きましょう



トを、グループで地図をにらみながら意見を出し合って決めていきます。

今回はシミュレーションゲームなので、地図上に助けてくれそうな人員の場所や危険な場所、避難場所など、避難に必要な情報を明確に示してあるため避難ルートも決めやすいですが、実際はどこに誰がいて、どこに何があるかなどの情報は事前に自分で確認しておく必要があります。ハザードマップの必要性、災害に対する危機管理の意識がとても重要になることがよくわかりました。

